

# 実践から作成する表現遊び指導案（Ⅰ）

## 保育者の配慮を理解する

### A Teaching Plan for Young Children's 'Expression Play' based upon Current Practice（Ⅰ） — Understanding the Concerns of Pre-school Teachers —

佐々木昌代      梅木光子      池田敦子

Masayo SASAKI      Mitsuko UMEKI      Atsuko IKEDA

#### Ⅰ. はじめに

保育指導案を作成するということは、保育者をめざす学生達にとって必須のことである。具体的には、保育・教育実習で研究保育を行う際に求められる。実習記録簿の記載とともに、書く能力が問われるだけでなく、子どもの発達段階や状況を見極め、ねらいを設定し、内容を考えて教材を選び、子ども達の活動を導く環境を構成し、一人一人の子どもに応じた配慮や言葉かけを想定する等々、保育者としての十分な資質が養われているか否かも問われる。

これまで、指導案作成の実際的な指導は、学内では保育園や幼稚園での保育経験を有する教員の授業や附属幼稚園での幼稚園教育実習前指導が主であったが、指導不足ということは少なかった。学生一人一人が実習先の指導を受けて、研究保育を計画・実施する過程で指導案を作成する能力を身に付けていった。卒業生の言葉を借りれば、「誰かに書き方を教えて貰おうという気持ちはなかった」「とにかく自分で賢明に考えたり資料を探したりして指導案を書いた」ということであった。ところが、近頃は、研究保育の指導案作成を前にした学生が「習っていない」「書いたことがない」ので書き方を教えてほしいと申し出るようで、大学でしっかり指導案の書き方を指導してから実習に送り出して貰いたいとの指摘を実習先から受けるようになった。

このような実習先からの指摘に対応していくには、表現の授業においても、学生自身の表現力を高める内容や学生を子どもに見立てて指導例を示す内容だけで進めていたのでは不十分であろう。特に、自分なりに指導案を書こうとせずに「習っていない」「書いたことがない」と主張する学生に対しては、指導例に指導案モデルも添えるということを考慮する必要があるかもしれない。

まずは、「習っていない」「書いたことがない」といった主張に繋がっている学生の躰きである「子どもの活動は組み立てられるが環境構成や指導の配慮・留意点を書くことが難しい」ということについて、指導案モデルを作成しながら理解していきたい。

---

\* 宮崎至慶幼稚園教諭

## II. 研究の目的

本研究の目的は、実習で研究保育に臨む学生や保育経験が浅い保育者に対して、容易に実践できる表現遊びの保育指導案を提案していくことにある。

これまででも、授業で取り組んできた表現遊びの指導例を保育指導案に書き起こし、保育園や幼稚園で実際に子ども達を指導するとともに、保育経験が豊富な保育者と協議して保育指導案を修正するという作業を行ってきた。修正した保育指導案は、授業を通して学生に提案もしてきた。しかしながら、子ども達との実践や保育者との協議を通して得られた保育の理解、保育指導案の書き方についての知見は、きちんと整理して、授業や保育現場に十分に還元して来なかった。

よって、本稿では、保育者養成課程の教員と幼稚園教諭が協議しながら、保育指導案を作成して実際の指導に沿って修正する過程を記述することで、保育者が子どもの活動（遊び）を指導・援助する際の環境構成を含めた配慮について理解を深めるとともに、表現遊びの実践しやすい保育指導案モデルを提案することを企図している。

## III. 指導案

### (1) 保育指導案「手つなぎ鬼」

「手つなぎ鬼」は表現遊びの指導案ではないが、保育指導案について研究する切っ掛けとなった指導案であるので、最初に掲げておきたい。この指導案は、保育園見学の際に参観した「手つなぎ鬼」をもとに、授業の中で学生と実践しながら作成し、保育者の目線から修正を行ったものである。参観した保育では、男性保育士が高い運動能力を生かして子ども達が手つなぎ鬼に没頭して楽しめるように関わりつつ、ルール遵守、危険防止、子ども同士のトラブルへの配慮（保育者のねらい）が明確であった。しかし、それらを指導案に表現することはなかなか難しく、ここに掲げた指導案以前にも書き直しを繰り返した。書き直しの原因は、「ねらい」を絞り込めなかったためである。本時のねらいを、走り回って遊び込むこと、危険を察知して臨機応変に回避すること、新しいルールをつくること、互いに協力して作戦を立てること等々から、何れに絞るかによって内容、環境構成、配慮・留意点が異なってくるからである。

ここでは、指導案を協議・修正するに当たって、保育指導案全体の枠組みについて共通理解を持った。以下の通りである。

- ・子どもの姿は、子どもの姿と設定理由に分ける。
- ・子どもの姿は、基本的には前日のことを記述し、現在形で書いていく。
- ・子どもの姿は、設定理由、ねらい、内容へと繋がっていないなければならない。
- ・ねらいは、基本的に子ども達に身に付けてほしいことで、抽象的な表現になる。
- ・内容は、ねらいを具体的に表したもので、保育者が活動の中で子ども達にもっとも関わってきたいことである。また、時間配当に見合った内容でなければならない。
- ・ねらいと指導の配慮及び留意点（以下、配慮と略す。）は、整合性が必要である。ねらいを達成するためにもっとも中心となる子どもの活動についての配慮が、もっとも手厚く書かれていなければならない。時間配当もそれに沿っていないなければならない。
- ・環境構成は、図ではなく、できるだけ文章で書く。
- ・環境構成は、子どもも保育者もスムーズに活動ができるために、事前に整えておくべきことで

# 保 育 指 導 案 「手つなぎ鬼」

11月13日(金)	はな組 5～6歳児 (男児 10名 女児 10名 計 20名)	担任 実習生 佐々木 昌代 印	
<p>子ども姿</p>	<p>月末に行われる発表会に向けた表現活動(合奏や劇)のために、十分な外遊びの時間が確保できていない。そのために、発表会への意欲的な様子も見られない一方で、「運動会でやっただりレーをした」「手つなぎ鬼が面白かったからまたやりたい」といった声も聞かれ、園庭で体を思う存分使って遊びたい、走り回りたいたいという欲求も上がっている。</p> <p>そこで、発表会の練習も順調に進んで短時間で済むようになってきたので、練習を要領よく行い、給食準備のために園庭から小さい組の子ども達が保育室に入った時間帯を利用して、はな組の子ども達も手つなぎ鬼を思いっきり楽しんで貰うことにした。</p>	<p>ねら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手つなぎ鬼を楽しみ、思いっきり走り回る。</li> <li>掛け合いことに高じて、ルールを守り、危険を避けることができる。</li> </ul> <p>内</p> <p>発表会に向けた練習のストレスを園庭で思いっきり鬼ごっこをすることで発散し、発表会への意欲も保つようにする。</p> <p>容</p>	
<p>11:30</p>	<p>環境構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>砂浜が上からならないように、水をまいて園庭を濡らしておく。ただし、靴が濡るほどまき過ぎない。</li> <li>周囲の遊具にぶつかからないように、園庭の中央に手つなぎ鬼の範囲をライン引きで描く。</li> </ul>	<p>指導の配慮及び留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園庭周囲の固定遊具や樹木の陰に隠れるよう指示する。</li> <li>子ども達が隠れている時間を使って、水をまき、手つなぎ鬼の範囲を描くが、鬼役らしい「もういいかい」などの言葉かけをする。</li> <li>前回遊んだときのルールがどうであったか確認する。</li> </ul>	<p>準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水まきホース</li> <li>ライン引き</li> <li>ホイッスル</li> </ul>
<p>11:40</p>	<p>予想される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇かくれんぼをする。</li> <li>〇隠れる場所を確認する。</li> <li>〇全員が隠れる。(鬼役は保育者)</li> <li>〇鬼に見つかったら、中央の円の中心で待つ。</li> <li>〇手つなぎ鬼をする。</li> <li>〇逃げられる範囲や鬼役等のルールを話し合う。</li> <li>〇鬼役をジャンケンで決める。</li> <li>〇鬼ごっこをする。</li> </ul>	<p>指導の配慮及び留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全力疾走のはな組の子どもとぶつかって、小さい組の子どもが転んだり、怪我をしたりしないように、はな組以外の子ども達が保育室に入り切るのを確認する。</li> <li>互いぶつかって怪我をしないように、鬼だけを見て逃げていたり、逃げている者同士がぶつかってしまうことがあることに気付けさせる。それでも、危険な状態が見られたら、ホイッスルで静止して、具体的に注意する。</li> <li>子ども達が全力で走る快感を味わって鬼ごっこが楽しめるように、鬼役になって大きな動きで追いかけてたりする。</li> <li>いつも鬼ごっこを離れて傍観しているT男は、タッチの有無を判定する審判役に誘って興味を持たせ、参加するよう促す。</li> <li>タッチしたくない、ラインから出た出ないでぶつかり合うことがあるE子とM子は、言い分が食い違っている場合は一旦遊びから離れて二人で話し合うようにする。</li> <li>鬼役が増えて複数の細に分かれたら、抜みうちにする等、互いに協力すると早く逃げている子を見えらるることに気付けさせる。</li> </ul>	<p>準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水まきホース</li> <li>ライン引き</li> <li>ホイッスル</li> </ul>
<p>11:55</p>	<p>〇話し合う。</p> <p>〇感想を話し合う。</p> <p>〇運動して汗をかけた後の約束事を確認する。</p>	<p>指導の配慮及び留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育室に入る前の手洗いとうがいだけでなく、汗を拭く(着替える)ことも約束事として確認し、実際に一人一人の行動を確認する。</li> </ul>	<p>準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水まきホース</li> <li>ライン引き</li> <li>ホイッスル</li> </ul>

# 保 育 指 導 案 「手つなぎ鬼」 (修正後)

11月13日(金)	はな組 5～6歳児 (男児 10名 女児 10名 計 20名)	担任 実習生 佐々木 昌代 印		
<p>子どももの案</p>	<p>発表会に向けた表現活動(合奏や劇)を楽しんでいる子どもが多いが、消極的な子どもも見られる。月末に行われる発表会表現活動のために、十分な外遊びの時間が確保できていない。そのため、発表会への意欲的な様子も見られる一方で、「運動会でやったりレーをしたい」「手つなぎ鬼が面白かったからまたやりたい」といった声を思う存分使って遊びたい、走り回りたいたいという欲求もうかがえる。</p>	<p>ねら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼関係を持つ。</li> <li>・ルールを知り、十分に体を動かして遊ぶ。</li> </ul>		
<p>設定理由</p>	<p>そこで、発表会の練習も順調に運んで短時間で済むようになっってきたので、練習を要領よく行い、給食準備のために園庭から小さい組の子ども達が保育室に入った時間帯を利用して、はな組の子ども達に手つなぎ鬼を思いっきり楽しんで貰うことにした。</p>	<p>内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとついしょに思いっきり走り回って手つなぎ鬼を楽しむ。</li> <li>・手つなぎ鬼のルールを知り、守って遊ぶ。</li> </ul>		
時間	環境構成	指導の配慮及び留意点	準備	
11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂浜が上がないように、水をまいて園庭を濡らせておく。ただし、靴が滑るほどまき過ぎない。</li> <li>・周囲の遊具にぶつかからないように、園庭の中央に手つなぎ鬼の範囲をライン引きで描いておく。</li> <li>・子ども達が手つなぎ鬼をスムーズに楽しめるように、職員間で話し合い、時間と場所の確認をしておく。</li> </ul>	<p>予想される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かくれんぼをする。</li> <li>・隠れる場所を確認する。</li> <li>・全員が隠れる。(鬼役は保育者)</li> <li>・鬼に見つかったら、中央の円(手つなぎ鬼の範囲)の中で待つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭周囲の固定遊具や樹木の陰に隠れるよう指示する。</li> <li>・子ども達が隠れている時間を使って、水をまき、手つなぎ鬼の範囲を描くが、鬼役らしい「もういいかい」などの言葉かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水まきホース</li> <li>・ライン引き</li> <li>・ホイッスル</li> <li>・救急箱</li> </ul>
11:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回遊んだときのルールを伝えて、スムーズに手つなぎ鬼に参加できるようにしておく。</li> <li>・互いにつかかって怪我をしないように、鬼だけを見て逃げていると、逃げていない者同士がぶつかってしまふことがあることを知らせしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手つなぎ鬼をする。</li> <li>・逃げられる範囲や鬼役等のルールを確認する。</li> <li>・鬼役をジャンケンで決める。</li> <li>・鬼ごっこをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール確認、鬼役決め時間に時間を取られて、手つなぎ鬼(体を動かすこと)に集中できる時間が少なくならないように援助していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全力疾走のはな組の子どもとぶつかって、小さい組の子どもが転んだり、怪我をしたりしないように、はな組以外の子ども達が保育室に入り切るのを確認する。</li> <li>・子ども達が全力で走る快感を味わって鬼ごっこが楽しめるように、鬼役になって大きな動きで追いかけてたり、走るスピードに緩急をつけて鬼役に追われたりする。</li> <li>・いつも鬼ごっこを離れて傍観しているT男は、タッチの有無を判定する審判役に誘って興味を持たせ、参加するよう促す。</li> <li>・タッチしない、ラインから出た出ないでぶつかって合図があるE子とM子は、言い分が食い違う場合は一旦遊びから離れて二人で話し合うようにする。</li> <li>・鬼役が増えて複数の組に分かれたら、挟みうちにする等、互いに協力すると早く逃げている子を捕まえられることに気付かせる。</li> </ul>
11:55	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合う。</li> <li>・感想を話し合う。</li> <li>・運動して汗をかけた後の約束事を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室に入る前の手洗いとうがいだけでなく、汗を拭く(着替える)ことも約束事として確認し、実際に一人一人の行動を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水まきホース</li> <li>・ライン引き</li> <li>・ホイッスル</li> <li>・救急箱</li> </ul>	

保育指導案 (略案) 「表現遊び：動物になってみよう!! (3歳児)」 ねらい：動物になりきって、体で表現することの楽しさを味わう。

環境構成	予想される子どもの活動	指導の配慮及び留意点
<p>・自由に空間を使うことにならないうい、3歳児であるので、動物の表現が一つ終わるごとに椅子に戻って話を聞いてから次の動物の表現に進むようにする。</p> <p>・椅子の前立って表現をしても、椅子や他の子どもとぶつかからない間隔が保たれているか確認し、狭い場合は間隔を開けるように指示する。</p> <p>・保育者自身が動物になることを楽しむ。</p> <p>・声かけは、子ども達が自然に動物になりきれるように、動きの説明ではなく、表現している動物としての呼びかけや鳴き声などを中心にする。</p> <p>・最初に子ども達が精一杯表現することを体で囲めるように、伸縮のところでは、十分に伸縮するまで声をかけ、できたら思いっきり褒める。</p> <p>・大きなおにがに敗でがっかりしたりゴリラの察田気や表情を十分に表して、子ども達がゴリラになりきれられるようにする。</p> <p>・腕を使って各部位を表現するが、手だけの表現にならないように体の中心(胴体)を大きく動かして、子ども達が全身でゾウになりきるようにする。</p> <p>・跳びでは声かけを工夫して、子ども達が小：赤ちゃん、中：お母さん、大：お父さんの違いをしっかりと表現できるようにする。</p> <p>・‘こんにちは’ ‘いただきます’ などの擬人化した言葉を発しながら表現し、子ども達がアシカシヨシーを想像してアシカになりきるようにする。</p> <p>・ゆっくりから段々速くするなどの緩急やびたっと止まる静止を入れて表現しメリハリをつけ、子ども達が楽しんでアシカになりきるようにする。</p> <p>・なりきっていた動物や上手にできていた表現を褒めて、子ども達が満足感を持っているようにする。</p>	<p>○保育者の話を聞く。</p> <p>・先生といっしょに、動物園や水族館の動物になることを知る。</p> <p>・先生の表現は何の動物かを当てて、みんなでその動物になることを理解する。</p> <p>○動物になる。</p> <p>①フライング (ウオームアップ) ： (翼と体を伸縮する一飛ぶ) ×くりかえし一喜ぶ。</p> <p>②ゴリラ ：腕を動かす一顔のストレッチー胸を叩いて叫ぶ。</p> <p>③ゾウ ：大きな耳一大きな尻一可愛い尻尾一長一鼻。</p> <p>④ウサギ ：赤ちゃんが跳ぶ一お母さんが跳ぶ一お父さんが飛び跳ぶ。</p> <p>⑤アシカ ：正面に挨拶一拍手一左右に挨拶一拍手一餌をもらう一喜ぶ。</p> <p>⑥ペンギン ：前へ歩く一後ろへ歩く一岩を跳ぶ一泳ぐ一餌をわたって鳴く。</p> <p>○話し合う。</p> <p>・動物になった感想などを話し合う。</p> <p>・次になってみたい動物について話し合う。</p>	<p>○子ども達に説明する。</p> <p>・子ども達が動物園や水族館の動物を具体的にイメージして活動に興味を持てるように、体の表現も交えて説明する。</p> <p>・ゆっくりと順序立てて説明し、繰り返したり、問いかけて確認したりして、子ども達が活動の進め方をしっかりと理解できるようにする。</p> <p>○子ども達といっしょに動物になる。</p> <p>・上手に動物になりきって表現している子どもを褒めたり、他の子ども達にもいいところを紹介したりして、なりきろうとする意欲を引き出す。</p> <p>・表現を提案してくる子どもがいた場合は、それが主にならない範囲で表現を取り入れ、次時の子ども達も自分で考えて表現する活動に繋げていく。</p> <p>・子ども達が活動の進め方が理解できたと確認しながら行い、理解できていない子どもには再度説明する。</p> <p>・子ども達が表現をしっかりと見てくれるように、サルかゴリラが考えて、叫ぶところとゴリラと分かるようにする。</p> <p>・擬態語や擬声語を工夫しながらゾウの各部位を強調して表現し、直ぐにゾウと分かる鼻は最後にして、子ども達の興味を引くようにする。</p> <p>・直ぐにウサギや当たられたら、子ども達と赤ちゃん、お母さん、お父さんウサギに相応しい声かけをするように促し、そのかけ声に合わせて表現する。</p> <p>・左右に転がって挨拶するところでは、周囲を確認する表現を入れて、お互いぶつからないようにする。</p> <p>・後ろに下がるところや床を滑って泳ぐところでは、周囲を確認する表現を入れて、他の子どもや椅子にぶつかないようにする。</p> <p>○子ども達と話し合う。</p> <p>・自信を持って自分の思いを言えない子ども達からも、言葉をつまったり聞いたりしたりしながら、感じたことや次時への希望を聞いていく。</p>

保育指導案（略案）「表現遊び：動物になってみよう!!（3歳児）」ねらい：動物になりきって、体で表現することの楽しさを味わう。（修正後）

環境構成	予想される子活動	指導の配慮及び留意点
<p>・自由空間を確保することになり、3歳児であるので、動物の表現が一つ終わるごとに椅子に戻って話を聞いてから次の動物の表現に進むようにしておく。</p> <p>・椅子の前立って表現しても、椅子や他の子どもとぶつからない間隔が保たれているか確認し、狭い場合は間隔を開けるように指示しておく。</p> <p>・子ども達が保育者の表現をしっかり見て、興味を湧かせるように、保育者自身が動物になりきって楽しめるように表現を工夫し、練習しておく。</p> <p>・言葉かけは、子ども達が自然に動物になりきれように、動きの説明ではなく、表現している動物としての呼びかけや鳴き声などを中心しておく。</p> <p>・子ども達が精一杯表現できるように、伸縮のところでは、十分に伸縮できるような言葉かけを用意しておく。</p> <p>・子ども達がゴリラになりきれように、大きながに股でがっちりしたゴリラの雰囲気や表情を十分に表しておく。</p> <p>・腕を体の伸縮に連動させながら各部位を表現するようにしておく。体の中心(胴体)を大きく動かして、子ども達が全身でゾウになりきれように、子ども達が小：赤ちゃん、中：お母さん、大：お父さんの違いをしっかりと表現できるように、跳ぶでは言葉かけを工夫しておく。</p> <p>・子ども達がアシカシカシカを想像してアシカになりきれように、「こんにはばいいただきます」などの擬人化した言葉が発しながら表現するようにしておく。</p> <p>・子ども達が楽しんでベンギンになりきれように、ゆっくりから段々速くするなどの緩急やびたっと止まる静止を入れて表現にメリハリをつけるようにしておく。</p> <p>・子ども達が満足感を持てるように、なりきっていた動物や上手にできていた表現を褒める時間を確保しておく。</p>	<p>○保育者の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生と一緒により、動物園や水族館の動物になることを知る。</li> <li>先生の表現は何の動物かを当て、みんなでその動物になることを理解する。</li> </ul> <p>○動物になる。</p> <p>①アライグマ (ウォームアップ) ：翼と体を伸縮する一飛ぶ) ×くりかえし一喜ぶ。</p> <p>②ゴリラ ：腕を動かす一顔のストレッチー胸を叩いて叫ぶ。</p> <p>③ゾウ ：大きな耳一大きな尻一可愛い尻尾一長〜い鼻。</p> <p>④ウサギ ：赤ちゃんが跳ぶ一お母さんが跳ぶ一お父さんが飛び跳ねる。</p> <p>⑤アザラシ ：正面に挨拶一拍手一左右に挨拶一拍手一餌をもらう一喜ぶ。</p> <p>⑥ペンギン ：前に歩く一後ろに歩く一岩を跳ぶ一泳ぐ一餌をねだって鳴く。</p> <p>○話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物になった感想などを話し合う。</li> <li>次になってみたい動物について話し合う。</li> </ul>	<p>○子ども達に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達も動物園や水族館の動物を具体的にイメージして活動に興味を持てるように、体の表現も交えて説明する。</li> <li>ゆっくりと順番立てて説明し、繰り返したり、問いかけて確認したりして、子ども達が活動の進め方をしっかり理解できるようにする。</li> </ul> <p>○子ども達といっしょに動物になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上手に動物になりきって表現している子どもを褒めたり、他の子ども達もよいところを紹介したりして、なりきろうとする意欲を引き出していく。</li> <li>表現を提案してくる子どもがいた場合は、それが主にならない範囲で表現に取り入れ、次第の子ども達も自分で考えて表現する活動に繋げていく。</li> <li>子ども達が活動の進め方が理解できたら確認しながら行い、理解できていない子どもには再度説明する。</li> <li>伸縮が十分でたまたま思いっきり萎み、子ども達が全体で表現できるようにしていく。</li> <li>子ども達が表現をしっかりと見てくれるように、サルかゴリラが考えて、叫ぶるところでゴリラと分かるようにしていく。</li> <li>擬態語や擬声語を工夫しながらゾウの各部位を強調して表現し、直ぐにゾウと分かる鼻は最後にして、子ども達の興味を引くようにしていく。</li> <li>直ぐにウサギと当てられたら、子ども達も赤ちゃん、お母さん、お父さんウサギに相応しい声かけをするように促し、そのかけ声に合わせて保育者が表現する。</li> <li>左右に転がって挨拶するところでは、周囲を確認する表現を入れて、お互いぶつからないようにする。</li> <li>後ろに下がるころや泳を滑って泳ぐところでは、周囲を確認する表現を入れて、他の子どもも泳ぐよぶつからないようにする。</li> </ul> <p>○子ども達と話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自信を持って自分の思いを言えない子ども達からも、言葉を補ったり問いかけたりしながら、感じたことや次時への希望を聞いていく。</li> </ul>



保育指導案 「音を聴き分けて身体で表現してみよう！」 (修正後)

12月16日(木)	宮崎至慶幼稚園	たけ組(5～6歳児)	担任 梅木光子(教諭)	男児11名	女児7名	計18名	指導 佐々木昌代 印	池田敦子 印
子ども の姿	寒さに負けず、戸外でドッジボールやカッパを楽しんでいる子どもが多い。 ・気の合う友達としゃべりながら、絵画や粘土遊びをしながら、会話を楽しんでいる子どももみられる。 ・園庭で遊んでいる子どもは、おもちゃを手に取り、おもちゃを動かして楽しんでいる様子もみられる。	ね ら い	・身近な曲や旋律に親しみ、リズム感や音感を養う。 ・友だちと一緒に身体を動かす楽しさを感じる。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現する。					
設定理 由	・リズム発表会を終えた子ども達は、歌を口ずさみながら身体を動かしてはいた時期に、リズムや音に親しむ機会を多く取りたいと考えている。 ・歌やダンスに関心を寄せているこの時期に、リズムや音に親しむ機会を多く取りたいと考えている。 ・歌やダンスに関心を寄せているこの時期に、リズムや音に親しむ機会を多く取りたいと考えている。	内 容	・保育者が弾くピアノの曲や旋律を聴き、リズムや音の違いを聴き分けられるようにする。 ・友だちの動きにも気づきながら、自分らしい身体表現をする。					
目標	・子どもが理解しやすいように、表に音符、裏に呼び方を書いておく。 ・子どもが真似しやすいように、保育者が大きな動きで、元気よく手拍子をやりながら説明しておく。	環 境 構 成	・保育者が弾くピアノの曲や旋律を聴き、リズムや音の違いを聴き分けられるようにする。 ・友だちの動きにも気づきながら、自分らしい身体表現をする。					
10:20	・子どもが活動に期待が持てるように、ピアノを聴いて4種類のリズムと曲名を当てて貰ってから、動きの説明をしておく。 ・「ゲーム感覚ですすめ、子どもが楽しんで意欲的に取り組んでくれるように、4種類のリズムをしっかりと聴き分けられるようにして、子どもがリズムの聴き分けに集中できるように、ルールを説明するまで説明しておく。 ①弾くピアノを聴く。 ②自分のグループのリズムと分かったら、立ち上がり表現する。 ③自分のグループのリズムが分かったら、立ち上がり表現する。 ④自分のグループのリズムが分かったら、立ち上がり表現する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	予想される活動	・保育者の話を聞き、4種類のリズムを聴き分けて、手拍子や身体で表現する。 ・カードを見て、4種類のリズムを手拍子で表現する。 a. 「くらまる」(4分音符) b. 「くらまる」(8分音符) c. 「スキップ」(拍点音符) d. 「しらまる」(生音符)					
10:25	・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	環 境 構 成	・ピアノを聴いて、身体で表現する。 ①保育者といっしょにする。 a. 「トトロのさんぽ」歩く b. 「おんまは」走る c. 「おんまは」走る d. 「おんまは」走る ②みんなが揃って、リズムを長く弾いたり短く弾いたりする。 ③グループに分かれて、リズムを長く弾いたり短く弾いたりする。 a. 「くらまる」手拍子なし b. 「くらまる」スキップ c. 「スキップ」手拍子なし d. 「しらまる」スキップ					
10:40	・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	環 境 構 成	・保育者の話を聞き、音を聴き分けて、手拍子や身体で表現する。 ・ピアノを聴いて、手拍子で表現する。 ①手拍子を弾く。 ②手拍子を弾く。 ③手拍子を弾く。 ④手拍子を弾く。					
10:45	・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	環 境 構 成	・ピアノを聴いて、身体で表現する。 ①手拍子を弾く。 ②手拍子を弾く。 ③手拍子を弾く。 ④手拍子を弾く。					
11:00	・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	環 境 構 成	・ピアノを聴いて、身体で表現する。 ①手拍子を弾く。 ②手拍子を弾く。 ③手拍子を弾く。 ④手拍子を弾く。					
11:15	・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	環 境 構 成	・ピアノを聴いて、身体で表現する。 ①手拍子を弾く。 ②手拍子を弾く。 ③手拍子を弾く。 ④手拍子を弾く。					
11:20	・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。 ・子どもが真似しやすいため、説明は初めは音だけを弾き、徐々にリズムを加えて説明する。	環 境 構 成	・ピアノを聴いて、身体で表現する。 ①手拍子を弾く。 ②手拍子を弾く。 ③手拍子を弾く。 ④手拍子を弾く。					

ある。子どもや保育者の配置、教材や教具の準備状況などを書くだけでは不十分である。

- ・危険防止については、危険回避能力を身に付けることがねらいであったとしても、環境構成として、活動の最初にしっかり押さえておく。その上で、ねらいや実際の活動場面に応じた配慮を行っていく。

## (2) 保育指導案（略案）「表現遊び：動物になってみよう!!（3歳児）」

動物になりきって、姿形や動きを模倣していく教材である。動物は、動物園の動物、水族館の動物、鳥、魚、昆虫など、人間以外の生物なら何でもよい。自分のイメージによって個性を発揮しながら動物を表現することを楽しむ場合と、保育者の動きを真似ながらいっしょに表現して動物になり切ることを楽しむ場合がある。これは、後者の指導案である。授業でも、保育園や幼稚園でも、うまく指導できなかったということはなく、学生も、子ども達も、保育者も喜々として表現を楽しんでくれる。

運動会の親子表現として、十数年間、子ども達の希望に添って題材（動物）を変えながら工夫を凝らしてきたので、ここで取り上げている動物の表現の他にも豊富なパターンがある。学生が実習で「試みたい」「試みました」と言ってくれる教材である。

対象とする子どもの発達段階によって、当然のことながら、指導案の内容は異なる。例えば、5歳児（年長児）は、上手に表現したいという意欲があるので、表現にメリハリをつけて興味を引く。4歳児（年中児）は、繰り返して表現することを楽しむが、単調な反復では集中力を削いでしまうので、テンポや大きさに変化をつけて表現を繰り返す。3歳児（年少児）は、次々表現を連続させると興味や集中力が持続しにくいので、一つ一つの表現を区切って表現の違いを強調する。

ここで、動物を一つ表現するごとに椅子に戻って座るというのは、表現を区切って、表現ごとに興味を湧き立たせるとともに、子ども達の居場所を決めるという意図がある。子ども達は表現遊びに興じて楽しくなるほど、保育者の周囲に密集して団子状態になることが多い。活動の始めに保育者に近付き過ぎないように約束したり、言葉かけによって表現していく中で分散するように促したりしても、低年齢ほど団子状態になりやすい。ところが、保育園の年少児クラスで「動物になってみよう!!」を実践しようとして教室に入ったとき、担任保育士の配慮で、均等に間隔を取って置かれた椅子に行儀よく座って待っていた子ども達が立ち上がって元気に挨拶をして出迎えてくれた。子ども達が互いに表現をしていくのに邪魔にならない間隔で椅子が並べられていたこと、予定していた表現が歩いたり走ったりして移動するよりその場で身体を十分使い切ることが主体であったこと、椅子を片付ける時間が惜しかったことから、指導案のように表現ごとに椅子に戻るようにして進めたところ、団子状態が発生せず、動物になりきって表現することに集中できた。子ども達も担任保育士も活動に満足して、子ども達の希望で年度末に行われた生活発表会の舞台上で動物になる表現遊びを披露した。

ここでは、指導案を協議・修正するに当たって、ねらい達成に関わる環境構成と配慮の違いについて共通理解を得た。以下の通りである。

- ・環境構成は、ねらい達成のための活動（内容）に子どもも保育者も集中できるように、事前に場所、教具、教材、言葉かけなどを準備しておくことである。事前にということは、活動を始める前に限らない。活動中であっても、子どもの次の活動に向けて準備していくこと、すなわち事前の配慮は環境構成である。よって、順次展開される活動の1秒前の配慮も環境構成とし

て、過去形で書く。

- ・環境構成が事前の配慮なら、配慮は事後の配慮である。環境構成に導かれて展開する子どもの活動（環境構成に対する子どもの反応）をみて、必要に応じて子どもに関わっていくことが配慮である。環境構成によって十分な活動ができていない子どもに対しては認めたり、褒めたり、共感したりしていき、十分な活動ができていない子ども、分からない子ども、困っている子どもに対しては言葉かけなどを工夫して一人一人に関わっていく。
- ・十分な活動をしている子どもとは、ここではなりきれている子どもである。認め、褒めていくが、あくまでも保育者は子どもの目線で、その子どもなりに動物になって楽しんでいたら共感していく。
- ・環境構成によってスムーズに活動が展開されない場合の配慮は、環境の再構成でもある。
- ・ねらいを達成するためにもっとも中心となる子どもの活動、言い換えれば、子ども達にもっとも楽しんで貰いたい活動については、子ども達が遊びに没頭して満足できるように、環境構成と配慮の両方から、事前・事後の配慮が徹底した指導案を作成する。大事な活動については、環境構成も配慮も諄くなる。
- ・簡単なルール（ここでは先生の表現をみることやきちんと真似をすること）、表現のポイントとして押さえたところ（ここでは身体を精一杯使うことなど）は、活動が始まって動き出してしまうと子ども達は保育者の話を耳に入れなくなるので、動き出す前にしっかり約束しておく必要がある。環境構成に書き込んでおく。

### (3) 保育指導案「音を聴き分けて身体で表現してみよう!!」

参観や実践の繰り返しから作成していった(1)(2)の指導案に対して、この指導案は、活動内容は何度も保育園などで実践したことであるが、幼稚園での研究保育を念頭に作成・修正していったものである。(1)(2)での共通理解をもとに、以下の点に留意して指導案を作成し、修正を行った。

- ・予想される活動は、実際の保育を参観していなくても指導案をみるだけで活動の流れが理解でき、実践することができるように具体的な展開を書く。
- ・事前の配慮である環境構成と環境構成によって導かれる子どもの活動に対応していく配慮の違いを十分に意識して書く。
- ・ねらいを達成するために子ども達が主体的に活動していく指導案の中心となる場面（ここでは「身体で表現する」ところ）については、子ども達が十分に楽しめるように、環境構成と配慮を手厚く書いていく。
- ・子どもの姿から発想された指導案ではないが、これまでの実践を活かしながら、子どもの姿に則した指導案としていく。子どもの姿、設定理由は修正の段階で書き込んでいるが、作成の段階から、指導案立案・実践者と子ども達の担任教諭の間で協議を重ね、子ども達の経験や興味関心を踏まえて書き直しを繰り返した。

保育指導案「音を聴き分けて身体で表現してみよう!!」を研究保育として実践したところ、以下の点が課題であった。

- ・子ども達はたいへん楽しんで活動していたが、一人一人の活動を受け止めて対応することができていなかった。子ども達全体を褒めたり、認めたり、不十分な活動を引き上げるために言葉かけをしたりすることはできたが、その子どもなりに楽しんでいることに共感したり、

保育者の説明を十分に理解できていないために中途半端な表現になっている子どもへ関わったりする余裕がなかった。個々の子どもへの対応を担任教諭のサポートに頼った場面があった。指導案に配慮として掲げていても、それに従って実践することがもっとも難しいところである。

- ・遊びはできるだけ総合的な活動であるべきと考えるので「音」と「身体」を重ねた表現活動に拘ったが、それぞれに絞った指導案も作成、実践して、比較検討してみるべきである。
- ・音からイメージを湧かせて身体で表現するところは、ピアノの音を聴きながら自ら動き出そうとする子どもの主体性を尊重して、言葉かけやいっしょに表現することは控えて子ども達をじっくり観るべきであった。そうすれば、子ども達一人一人の表現の自由度も増し、個々の活動を受け止めて関わる、配慮することにも繋がった。

#### IV. まとめ（今後の課題）

保育者養成課程の教員と幼稚園教諭が協議しながら共通理解を持ち、保育指導案を作成して実際の指導に沿って修正する過程を記述してきた。そこから、保育者が子どもの活動（遊び）を指導・援助する際の環境構成を含めた配慮について理解を深めることができた。さらに、表現遊びの実践しやすい保育指導案モデル「音を聴き分けて身体で表現してみよう!!」「表現遊び:動物になってみよう!! (3歳児)」を作り上げることもできた。

今後は、以下を課題として、研究を継続していきたい。

- ・保育園や幼稚園の保育者の協力を得て、指導案モデルを実践、改善していく。例えば、学生が保育者となって子どもの前に立ったときに試みる意欲が湧き、やがて自分らしい工夫も加えられるような指導案とする。
- ・ここまで理解を深めた環境構成を含めた配慮について、表現遊びを保育園や幼稚園で具体的に指導することと併せて、授業の中で学生に指導していく。そのためには教材づくりが必要であるが、指導案の書き方は多様なスタイルがあるので、配慮を理解して書けるようになることに的を絞って進める。

#### 主要参考文献

- 1) ミネルヴァ書房編集部『保育所保育指針 幼稚園教育要領 [解説とポイント]』ミネルヴァ書房、2008年。
- 2) 無藤隆、民秋言『ここが変わった！ NEW幼稚園教育要領・保育所保育指針 ガイドブック』、フレーベル館、2008年。
- 3) 開仁志編著『これで安心！ 保育指導案の書き方実習生・初任者からベテランまで』、北大路書房、2008年。
- 4) 相馬和子、中田カヨコ編著『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林、2004年。
- 5) 鯨岡峻『保育・主体として育てる営み』ミネルヴァ書房、2010年。

